

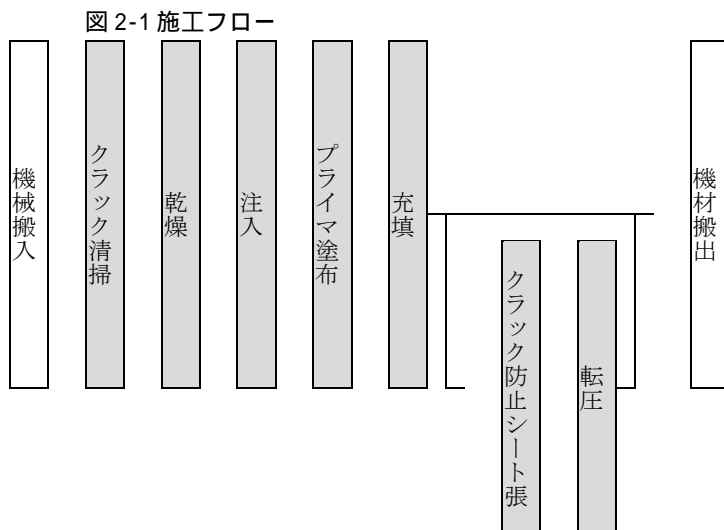
7) 舗装版目地補修工

1. 適用範囲

本資料は、コンクリート舗装版のクラックの補修に適用する。

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



- (注) 1. 本歩掛で対応しているのは、着色部分のみである。
 2. プライマ塗布，充填，転圧は，必要に応じて施工する。

3. 施工歩掛

3-1 補修歩掛

補修歩掛は、次表を標準とする。

表 3.1 補修歩掛

(1000m 当り)

名称	規格	単位	補修箇所	
			クラック	クラック防止シート張
世話役		人	1.3	1.2
特殊作業員		〃	1.2	0.6
普通作業員		〃	7.7	3.8
諸雑費率		%	12	17

- (注) 1. クラック補修の諸雑費は、空気圧縮機（排出ガス対策型（第1次基準値））、アスファルトケツトルの各機械損料・運転経費及びほうき、ハケ、プライマ等の費用であり、労務費、材料費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
 2. クラック防止シート張の諸雑費は、空気圧縮機（排出ガス対策型（第1次基準値））の損料・運転経費及びほうき、ハケ、プライマ、クラック防止シート等の割増しの費用であり、労務費、材料費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

3-2 材料使用量

充填材料の使用量は次式による。

$$G=100 \times g \times W \times D \times (1+K) \dots\dots \text{式 3.1}$$

G : 補修長 1000m 当り数量 (kg)

g : 充填材の比重 (kg/L)

W : 補修幅 (cm)

D : 補修深さ (cm)

K : ロス率

表 3.2 ロス率 (K)

補修箇所	クラック
ロス率	+0.10

4. 単価表

(1) 目地補修工 (クラック) 1000m 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1.3	表 3.1
特殊作業員		〃	1.2	〃
普通作業員		〃	7.7	〃
充填材	加熱式	kg		式 3.1
諸雑費		式	1	表 3.1
計				

(2) クラック防止シート張 1000m 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1.2	表 3.1
特殊作業員		〃	0.6	〃
普通作業員		〃	3.8	〃
クラック防止シート	各種	m	1000	
諸雑費		式	1	表 3.1
計				

8) 道路付属構造物塗替工

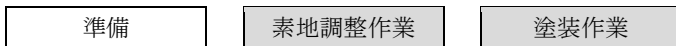
1. 適用範囲

本資料は、道路標識柱、道路照明柱、防護柵等の道路付属構造物の現地塗替作業に適用するものであり、その内容は 3 種ケレン及び下塗中塗上塗の各作業である。

なお、橋梁(横断歩道橋を含む)には、適用しない。

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 本歩掛で対応しているのは、着色部分のみである。

3. 対象構造物及び使用機械

3-1 対象構造物

本資料に適用出来る構造物は、次表とする。

表 3.1 適用構造物

名称	構造物名
ポール類	道路標識柱、道路照明柱等
防護柵類	ガードレール、ガードパイプ、ガードフェンス等
落石防止柵類	防雪柵、落石防止柵、落石防止網、落石防護柵等

(注) ポール類については、最大地上高 12m 以下とする。

3-2 機種を選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表 3.2 機種を選定

機械名	規格	単位	数量		摘要
			ポール類の高さ 4m 以上 10m 未満	ポール類の高さ 10m 以上	
高所作業車	トラック架装リフト・ブーム型 標準デッキタイプ、作業床高さ 8m	台	1		
	トラック架装リフト・ブーム型 標準デッキタイプ、作業床高さ 12m	〃		1	

(注) 1. ポール類の高さは、路面からの高さとする。

2. 高所作業車は、賃料とする。

なお、貸与機械の規格は「トラック架装リフト・ブーム型作業床高さ 12m」とする。

4. 素地調整(ケレン)工

4-1 素地調整の種別と程度

(1) さびが発生している場合

素地調整種別	さびの状態	発錆面積 (%)	素地調整内容
3 種 A	点錆がかなり点在している。	15~30	活膜は残すが、それ以外の不良部 (さび・われ・ふくれ)は除去する。
3 種 B	点錆が少し点在している。	5~15	同上
3 種 C	点錆がほんの少し点在している。	5 以下	同上

(2) さびがなく、われ・ふくれ・はがれ・白亜化・変退色などの塗膜異常がある場合

素地調整種別	さびの状態	塗膜異常面積 (%)	素地調整内容
3 種 C	発錆はないが、われ・ふくれ・はがれの発生が多く認められる。	5 以上	活膜は残すが、不良部は除去する。

4-2 素地調整作業歩掛

素地調整の歩掛は、次表とする。

表 4.1 素地調整作業歩掛 (100m2 当り)

名称	規格	単位	構造物名			
			全高 4m 未満のポール類	全高 4m 以上のポール類	防護柵類	落石防止柵類
塗装工		人	5.1	5.1	4.0	5.5
高所作業車運転	表 3.2 による	日	—	1.7	—	—
諸雑費率		%	2		3	2

- (注) 1. 素地調整作業の種別は、3 種ケレンを標準とする。
 2. この歩掛は、ディスクサンダ等を使用して施工する機械施工あるいは、人力施工及びそれらの組合せ施工等があるが、歩掛の補正はしない。
 3. 上記歩掛には、電力に関する労務を含む。
 4. ポール類の高さは、路面からの高さとする。
 5. 諸雑費は、電力に関する経費、ディスクサンダ、ワイヤブラシ、ハンマ、タガネ等のケレンに必要な工具等の費用であり、労務費に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
 6. 高所作業車は賃料を標準とする。
 7. 塗替作業にともない対象構造物の撤去・設置が必要な場合は、別途考慮する。
 8. 全高 2m 以上 4m 未満のポール類において足場が必要な場合は、別途考慮する。

5. 塗装作業 (塗替え)

5-1 塗装作業の施工方法

塗装作業の施工方法は、下塗、中塗、上塗とも刷毛塗りとする。

5-2 塗料の種類と使用量

塗料の種類及び使用量は、次表とする。

表 5.1 ペイント使用量 (1 回塗り当り) (kg/100m2)

塗装種別		規格	標準使用量
下塗り塗料	鉛系錆止めペイント 1 種	JISK5623, 5624, 5625 1 種	14
	〃 2 種	〃 2 種	14
	フェノール樹脂 MIO 塗料		25
中塗り塗料	長油性フタル酸樹脂塗料中塗	JISK5516 2 種	12
	塩化ゴム系塗料中塗	JISK5639	17
	シリコンアルキド樹脂塗料用中塗		12
上塗り塗料	長油性フタル酸樹脂塗料上塗	JISK5516 2 種	11
	塩化ゴム系塗料上塗	JISK5639	15
	シリコンアルキド樹脂塗料用上塗		11

- (注) 1. 上表は、塗料作業中におけるロス率 (飛散したものや残余塗料で使用不能になったもの等) を含んだ標準値である。
 2. 上表以外の塗料を使用する場合は、別途考慮する。

5-3 塗料施工歩掛

塗料作業の歩掛は、次表による。

表 5.2 塗装作業歩掛 (1 回塗り当り)

(100m²)

名称	規格	単位	構造物名											
			全高 4m 未満のポール類			全高 4m 以上のポール類			防護柵類			落石防止柵類		
			下塗	中塗	上塗	下塗	中塗	上塗	下塗	中塗	上塗	下塗	中塗	上塗
塗装工		人	4.5			4.5			3.3			3.2		
高所作業車運転	表 3.2 による	日	-			1.5			-			-		
諸雑費率		%	1						2			2		

(注) 1. タッチアップ作業が必要な場合は、下塗の歩掛により積算する。

2. ポール類の高さは、路面からの高さとする。

3. 諸雑費は、希釈剤費、刷毛の損耗費等の費用であり、労務費に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

4. 高所作業車は賃料を標準とする。

5. 塗替作業にともない対象構造物の撤去・設置が必要な場合は、別途考慮する。

6. 全高 2m 以上 4m 未満のポール類において足場が必要な場合は、別途考慮する。

6. 単価表

(1) 素地調整工（ケレン作業）100m² 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
塗装工		人		表 4.1
高所作業車賃料		日		表 3.2, 表 4.1
諸雑費		式	1	表 4.1
計				

(2) 塗替塗装工（回塗）100m² 当り単価

名称	規格	単位	数量	摘要
塗装工		人		表 5.2
ペイント		kg		表 5.1
高所作業車賃料		日		表 3.2, 表 5.2
諸雑費		式	1	表 5.2
計				

(3) 高所作業車（トラック架装リフト・ブーム型作業床高さ 12m）運転 1 日当り単価表（貸与）

名称	規格	単位	数量	摘要
運転手（特殊）		人	1.0	
燃料費		L	運転 1h 燃料消費量×T	第 I 編第 6 章 2) 原動機燃料消費量による
機械損料	トラック架装リフト・ブーム型 標準デッキタイプ作業床高さ 12m	h	T	
諸雑費		式	1	
計				

T：標準運転日当り運転時間

(4) 機械運転単価表

名称	規格	適用単価表	指定事項
高所作業車	トラック架装リフト・ブーム型 標準デッキタイプ, 作業床高さ 8m	機-29	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →19 賃料数量 →1.00
高所作業車	トラック架装リフト・ブーム型 標準デッキタイプ, 作業床高さ 12m	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →22 賃料数量 →1.00

9) 張紙防止工

9)-1 張紙防止塗装工

1. 適用範囲

本歩掛は、構造物への張紙を防止する塗装工に適用する。

2. ケレン作業

2-1 ケレン作業の種別と程度

「第IV編第3章8)道路付属構造物塗替工」による。

2-2 ケレン施工歩掛

ケレン作業の歩掛は次表とする。

表 2.1 ケレン作業歩掛 (100m² 当り)

名称	単位	数量
塗装工	人	4.0
諸雑費率	%	8

- (注) 1. この歩掛は、鋼構造物を対象としており、コンクリート構造物等については別途計上とする。
 2. 発動発電機の運転労務は、上記歩掛に含まれる。
 3. 諸雑費は、ディスクサンダ、発動発電機、ワイヤブラシ、ハンマ、タガネ等のケレンに必要な運転経費等の費用であり、労務費に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

3. 張紙防止塗装歩掛

3-1 張紙防止塗装歩掛は、次表とする。

表 3.1 張紙防止塗装歩掛 (100m² 当り)

名称	単位	数量	摘要
塗装工	人	2.5	人/層
諸雑費率	%	4	

- (注) 諸雑費は、希釈剤及びハケ、ローラ等の損耗費であり、労務費に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

4. 単価表

(1) 素地調整工 (ケレン作業) 100m² 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
塗装工		人	4.0	表 2.1
諸雑費		式	1	表 2.1
計				

(2) 張紙防止塗装工 100m² 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
塗装工		人	2.5	表 3.1
ペイント	特殊塗料	kg		
諸雑費		式	1	表 3.1
計				

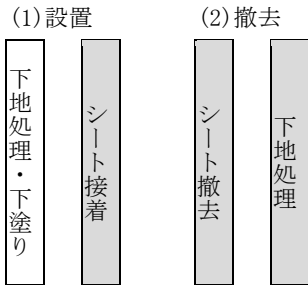
9)-2 貼紙防止シート工

1. 適用範囲

本資料は、構造物への貼紙を防止するシート貼り工に適用する。

2. 施工概要

施工フローは下記のとおりとする。



(注) 本歩掛で対応しているのは、着色部分のみである。

3. 施工歩掛

(1) 貼紙防止シート設置

表 3.1 貼紙防止シート設置歩掛 (100m² 当り)

名称	規格	単位	数量	摘要
特殊作業員		人	3.2	
普通作業員		〃	6.4	
貼紙防止シート		m ²	104	ロス率 4%
接着剤		kg	26.6	ロス含む

(注) 既設シートがない場合の下地処理及び下塗りは、「第IV編第3章8)道路付属構造物塗替工」による。

(2) 貼紙防止シート撤去

表 3.2 貼紙防止シート撤去歩掛 (100m² 当り)

名称	規格	単位	数量	摘要
特殊作業員		人	5.2	
普通作業員		〃	5.2	
下塗塗料		kg	15.5	工具損料・希釈剤含む

(注) 上記歩掛には、シート撤去後の下地処理を含む。

4. 単価表

(1) 貼紙防止シート設置 100m2 単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
特殊作業員		人	3.2	
普通作業員		〃	6.4	
貼紙防止シート		m2	104	ロス率 4%
接着剤		kg	26.6	ロス含む
諸雑費		式	1	

(2) 貼紙防止シート撤去 100m2 単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
特殊作業員		人	5.2	
普通作業員		〃	5.2	
下塗塗料		kg	15.5	工具損料・希釈剤含む
諸雑費		式	1	

10) 床版補強工

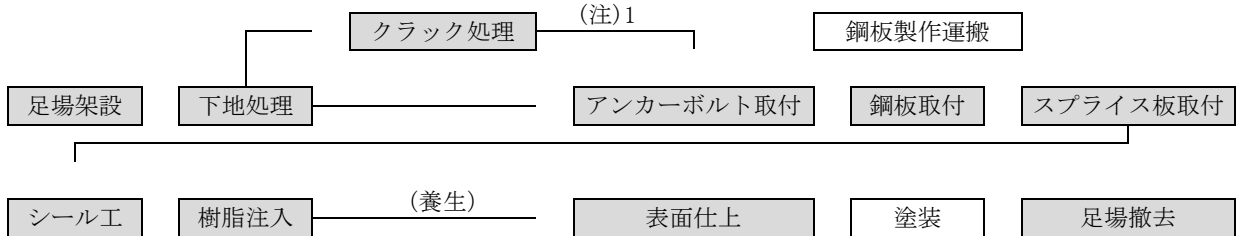
1. 適用範囲

本資料は、既設橋梁 RC 床版の補強に鋼板接着（注入工法），増桁架設を行う場合に適用する。

2. 施工概要

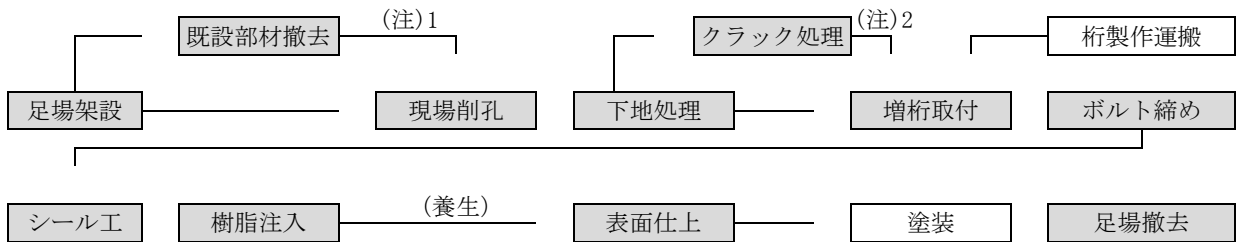
施工フローは、下記を標準とする。

2-1 鋼板接着（注入）工法



- (注) 1. クラック処理は、必要な場合に計上する。
 2. 本歩掛で対応しているのは、着色部分のみである。

2-2 増桁架設工法



- (注) 1. 既設部材撤去は、必要な場合に計上する。
 2. クラック処理は、必要な場合に計上する。
 3. 本歩掛で対応しているのは、着色部分のみである。

3. 鋼板接着工法

3-1 鋼板材料費

鋼板接着工法に用いる鋼板の材料費（製作費含む）は、共通仮設費及び現場管理費の対象外とする。

3-2 鋼板接着歩掛（下地処理，アンカー設置，鋼板取付，スプライス板取付，シール工，注人工，仕上工）

下地処理から，仕上までを一連の作業として行う場合の歩掛は，次表を標準とする。

表 3.1 鋼板接着歩掛 (鋼板接着 10m2 当り)

名称	規格	単位	数量		摘要
			数量	数量	
世話役		人	1.7		
特殊作業員		〃	9.7		
普通作業員		〃	2.1		
シール材	エポキシ	kg	必要量計上		必要量=設計量×(1+ロス率)
注入材	エポキシ	〃	〃		〃
諸雑費率		%	7		

- (注) 1. シール材の数量は，縁部，継目部について（スプライス板も含む）積上げにより算出するものとし，ロス率は+0.18 とする。
2. 注入材の数量は，「（鋼板取付面積+スプライス板取付面積）×注入厚さ×単位質量」より算出し，ロス率は+0.18 とする。
3. 本歩掛には，罨書作業を含む。
4. 諸雑費は，材料（ディスクサンドペーパー，シンナー，コンクリートアンカー，ドリル刃，注入パイプ，エア抜きパイプ）及び機械器具費（ディスクサンダ，振動ドリル，グラウト注入機，ハンドミキサ）及び電力に関する経費等の費用であり，労務費の合計額に表 3.1 の率を乗じた金額を上限として計上する。

4. 増桁架設工法

4-1 鋼桁材料費

増桁架設工法に用いる鋼桁の材料費（製作費含む）は，共通仮設費及び現場管理費の対象外とする。

4-2 増桁架設歩掛（現場削孔，下地処理，増桁取付，ボルト締，シール工，注人工，仕上工）

現場削孔から，仕上げまでを一連の作業として行う場合の歩掛は，次表を標準とする。

表 4.1 増桁架設歩掛 (増桁取付 1t 当り)

名称	規格	単位	数量		摘要
			障害無し	障害有り	
橋梁世話役		人	1.0	1.1	
橋梁特殊工		〃	5.1	6.2	
普通作業員		〃	1.9	2.2	
シール材	エポキシ	kg	必要量計上		必要量=設計量×(1+ロス率)
注入材	エポキシ	〃	〃		〃
諸雑費率		%	17	15	

- (注) 1. シール材の数量は，積上げにより算出するものとし，ロス率は+0.15 とする。
2. 注入材の数量は，「増桁取付面積×注入厚さ×単位質量」より算出し，ロス率は+0.15 とする。
3. 本歩掛には，高力ボルトの仮締めを含む。
4. 障害とは，ガス管，水道管，通信ケーブル等施工上支障をきたす占用物件等をいう。なお，障害「有り」，「無し」の判断は，各スパンごとに行うものとする。その場合の対象は，当該スパンの全増桁を対象とする。
5. 諸雑費は，材料（ディスクサンドペーパー，ドリル刃，シンナー，注入・エア抜きパイプ，スパーサー）及び機械器具費（ディスクサンダ，電気ドリル，チェンブロック，ウインチ，ドリフトピン，仮締ボルト，トルクレンチ，キャリブレーター，グラウト注入機，ハンドミキサ）及び電力に関する経費等の費用であり，労務費の合計額に表 4.1 の率を乗じた金額を上限として計上する。

4-3 既設部材の撤去

既設部材の撤去を計上する場合は、次表を標準とする。

表 4.2 既設部材撤去歩掛 (既設部材撤去 1t 当り)

名称	規格	単位	数量	摘要
橋梁世話役		人	2.3	
橋梁特殊工		〃	6.1	
普通作業員		〃	1.8	
諸雑费率		%	4	

(注) 諸雑費は、材料(アセチレンガス、酸素)及び機械器具費(ガス切断機)であり、労務費の合計額に表 4.2 の率を乗じた金額を上限として計上する。

5. 塗装作業(現場塗装)

塗装作業(現場塗装)は、「第VI編第2章市場単価8)橋梁塗装工」による。

6. クラック処理

クラック処理を計上する場合は次表を標準とする。

表 6.1 クラック処理歩掛 (クラック処理 100m 当り)

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	4.7	
特殊作業員		〃	12.9	
普通作業員		〃	4.2	
シール材	エポキシ	kg	必要量計上	必要量=設計量×(1+ロス率)
注入材	エポキシ	〃	〃	〃
諸雑费率		%	4	

(注) 1. シール材の数量は、積上げにより算出するものとし、ロス率は+0.15 とする。

2. 注入材のロス率は+0.15 とする。

3. 諸雑費は、電力に関する経費、材料(注入パイプ、エア抜パイプ、シンナー)及び機械器具費(ハンドミキサ、グラウト注入機)であり、労務費の合計額に表 6.1 の率を乗じた金額を上限として計上する。

7. 足場工

7-1 床版補強工における足場工費の算定は、次式による(橋種は、プレートガータ、ボックス、トラス、アーチ等各橋種共通)。

(1) 足場

桁高 1.5m 以上の場合

$$\text{足場工費} = (470X + 0.153y) \times A \quad \text{式 7-1}$$

桁高 1.5m 未満の場合

$$\text{足場工費} = (425X + 0.130y) \times A \quad \text{式 7-2}$$

X: 主体足場を架設している供用月数

(供用月数は小数第1位とし、第2位を四捨五入とする)

A: 足場工の必要橋面積 (m²)

y: 橋梁特殊工単価 (円/人)

(2) 朝顔

防護工等の設置により朝顔が必要な場合は次式による。

両側設置の場合

$$\text{朝顔工費} = (50x1 + 0.022y) \times A \quad \text{式 7-3}$$

片側設置の場合

両側設置の 1/2 とする。

x1 : 朝顔を架設している供用月数

(供用月数は小数第 1 位とし、第 2 位を四捨五入とする)

A : 足場工の必要橋面積 (m²)

y : 橋梁特殊工単価 (円/人)

(3) 足場工の必要橋面積、一般に次式により算定する。

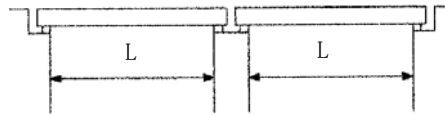
$$A = W \times L$$

A : 橋面積 (m²)

W : 全幅員 (地履外縁間距離) (m)

L : 足場必要長 (m)

(注) 足場必要長は一般的に径間長とする。



7-2 床版補強工における防護工 (板張, シート張) の算定は、次式による。

なお、板張防護・シート張防護を設置する場合は、別途足場工にて足場及び朝顔を計上する。

(1) 板張防護工

桁下に鉄道・道路等があり第三者に危害を及ぼす恐れのある場合に計上するものとし、7-1 で算定した足場工費に加算する。

両側朝顔の場合

$$\text{板張防護工費} = (110x2 + 0.018y) \times A \quad \text{式 7-4}$$

片側朝顔の場合

両側設置の 1/2 とする。

x2 : 防護工を架設している供用月数

(供用月数は小数第 1 位とし、第 2 位を四捨五入とする)

A : 防護工必要橋面積 (m²)

y : 橋梁特殊工の単価 (円/人)

(2) シート張防護工

塗装作業において、塗装飛散を防止する必要がある場合に計上するものとし、7-1 で算定した足場工費に加算する。ただし、桁下に鉄道・道路等があり第三者に危害を及ぼす恐れのある場合は、板張防護工とする。

両側朝顔の場合

$$\text{シート張防護工費} = (42x2 + 0.004y) \times A \quad \text{式 7-5}$$

片側朝顔の場合

両側設置の 1/2 とする。

x2 : 防護工を架設している供用月数

(供用月数は小数第 1 位とし、第 2 位を四捨五入とする)

A : 防護工必要橋面積 (m²)

y : 橋梁特殊工の単価 (円/人)

(3) 防護工の必要橋面積は、一般に次により算定する。

$$A=W \times L$$

A：防護工必要橋面積 (m²)

W：全幅員 (地履外縁間距離) (m)

L：必要長 (m)

8. 単価表

(1) 床版補強材材料費 1t 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
床版補強材		t	1	鋼板接着工用鋼板又は増桁架設工用桁
諸雑費		式	1	
計				

(2) 鋼板接着工 10m² 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1.7	表 3.1
特殊作業員		〃	9.7	〃
普通作業員		〃	2.1	〃
シール材	エポキシ	kg		表 3.1 必要量計上
注入材	〃	〃		〃
諸雑費		式	1	表 3.1
計				

(3) 増桁架設工 1t 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
橋梁世話役		人	1.0(1.1)	表 4.1
橋梁特殊工		〃	5.1(6.2)	〃
普通作業員		〃	1.9(2.2)	〃
シール材	エポキシ	kg		表 4.1 必要量計上
注入材	〃	〃		〃
諸雑費		式	1	表 4.1
計				

() 書きは障害有りの場合

(4) 既設部材撤去工 1t 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
橋梁世話役		人	2.3	表 4.2
橋梁特殊工		〃	6.1	〃
普通作業員		〃	1.8	〃
諸雑費		式	1	〃
計				

(5) クラック処理工 100m 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	4.7	表 6.1
特殊作業員		〃	12.9	〃
普通作業員		〃	4.2	〃
シール材	エポキシ	kg		表 6.1 必要量計上
注入材	〃	〃		〃
諸雑費		式	1	表 6.1
計				

(6) 足場工 1m2 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
橋梁特殊工		人	係数	式 7-1 又は式 7-2
足場損料		月	X	〃
諸雑費		式	1	
計				

(注) X:主体足場を架設している供用月数

(7) 朝顔 1m2 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
橋梁特殊工		人	係数	式 7-3
足場損料		月	x1	〃
諸雑費		式	1	
計				

(注) x1:朝顔を架設している供用月数

(8) 防護工 1m2 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
橋梁特殊工		人	係数	板張 式 7-4 シート張 式 7-5
板張又はシート張防護材損料		月	x2	〃
諸雑費		式	1	
計				

(注) x2:防護工を架設している供用月数

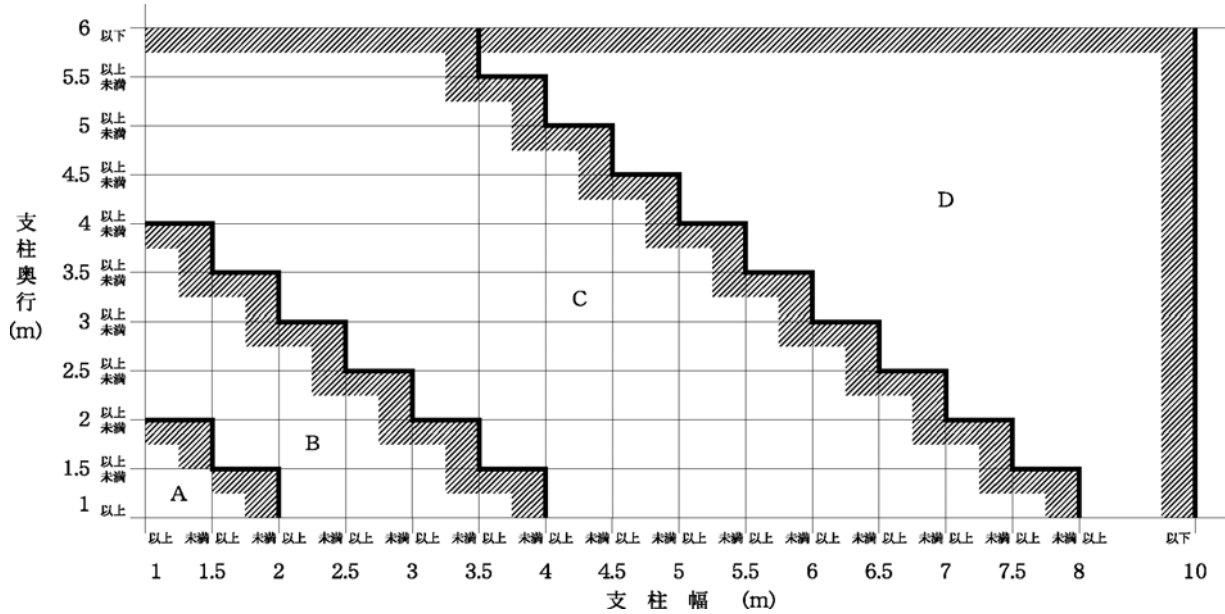
11) 橋梁補強工

11)-1 橋梁補強工（鋼板巻立て）（1）

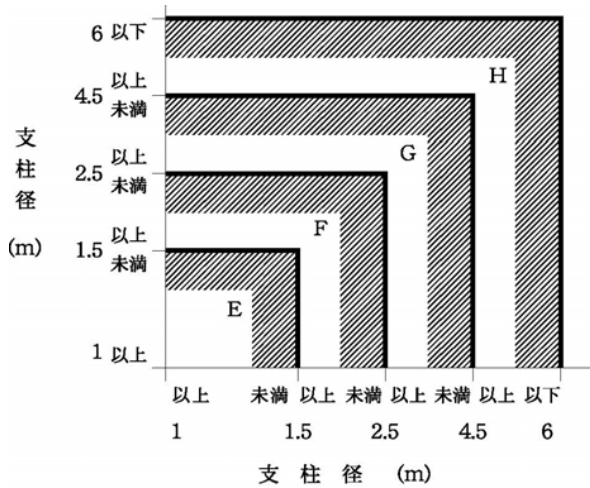
1. 適用範囲

本資料は、RC 橋脚（既設の鉄筋コンクリート橋脚）の補強に鋼板巻立て工を行う場合の次図の範囲に適用する。
 ただし、鋼板取付工の注入材がエポキシ樹脂又は無収縮モルタルの場合に限る。
 なお、梁の補強には適用しない。

(1) 矩形（小判形を含む）支柱



(2) 円形支柱



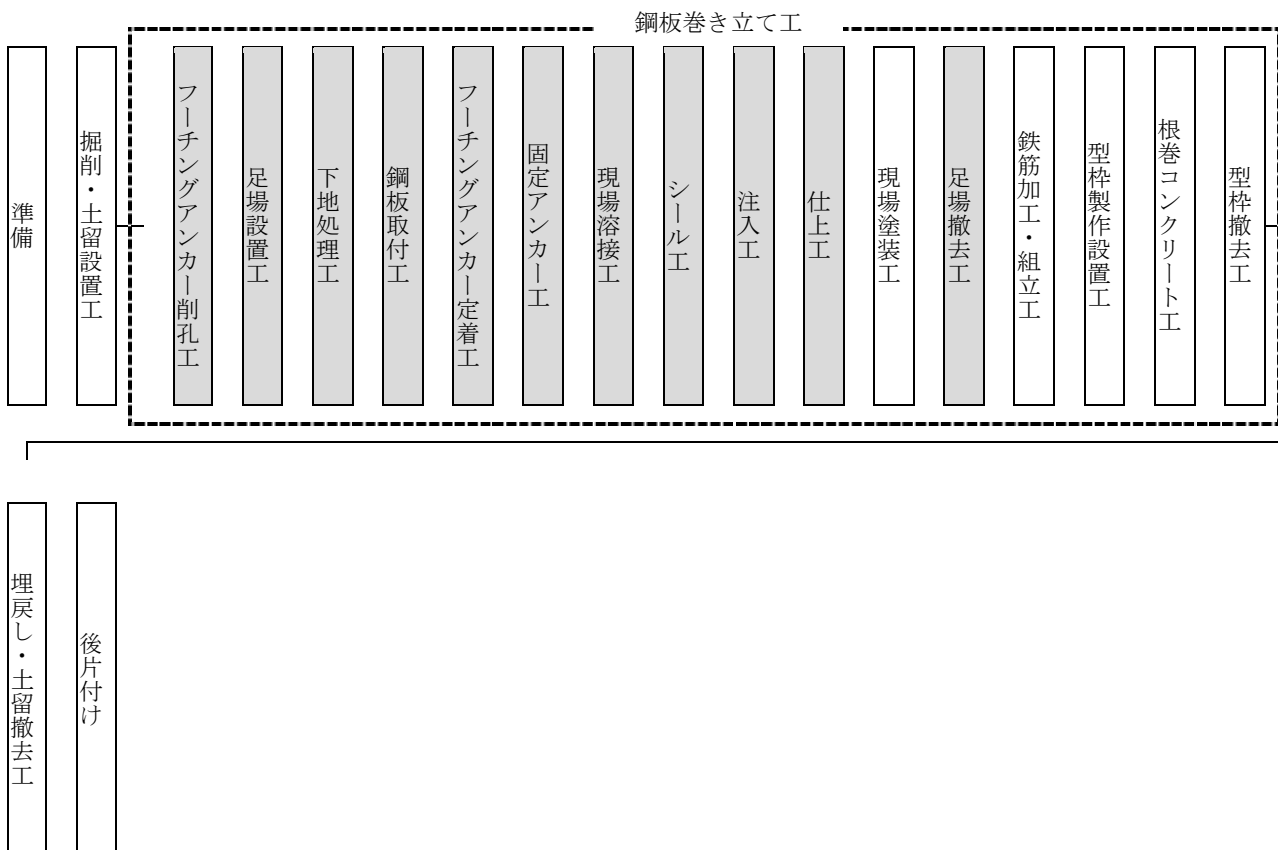
支柱区分	施工歩掛
A 支柱	表 3.1
B 支柱	表 3.2
C 支柱	表 3.3
D 支柱	表 3.4
E 支柱	表 3.5
F 支柱	表 3.6
G 支柱	表 3.7
H 支柱	表 3.8
適用範囲外	鋼板巻立て(2)

(注) 支柱幅・支柱奥行・支柱径は、補強前の支柱寸法とする。

図 1.1 矩形（小判形を含む）及び円形支柱の適用範囲

2. 施工フロー

施工フローは、下記を標準とする。



- (注) 1. 本歩掛で対応しているのは、着色部分のみである。
 2. 掘削・埋戻し工及び土留設置・撤去工が必要な場合は、別途計上する。

3. 施工歩掛

3-1 鋼板材料費

鋼板巻き立て工に用いる鋼板の材料費(製作費を含む)は、共通仮設費及び現場管理費の対象外とする。

3-2 鋼板巻き立て工(1)

鋼板巻き立て工は、足場設置工、下地処理工、鋼板取付工、固定アンカー工、シール工、注入工、仕上工、足場撤去工までの一連作業とする。

鋼板巻き立て工を行う各支柱区分毎の歩掛は、次表を標準とする。

表 3.1 施工歩掛 (A 支柱) (鋼板取付 10m2 当り)

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1.0	
とび工		〃	0.8	
特殊作業員		〃	3.8	
普通作業員		〃	2.1	
シール材	エポキシ樹脂	kg	必要量計上	(注) 1 鋼板 10m2 当りシール量
注入材		〃	〃	(注) 2 鋼板 10m2 当り注入量
諸雑費率		%	37 (29)	

表 3.2 施工歩掛 (B 支柱)

(鋼板取付 10m2 当り)

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1.0	
とび工		〃	0.6	
特殊作業員		〃	3.8	
普通作業員		〃	2.1	
シール材	エポキシ樹脂	kg	必要量計上	(注) 1 鋼板 10m2 当りシール量
注入材		〃	〃	(注) 2 鋼板 10m2 当り注入量
諸雑費率		%	35(28)	

表 3.3 施工歩掛 (C 支柱)

(鋼板取付 10m2 当り)

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	0.9	
とび工		〃	0.5	
特殊作業員		〃	3.8	
普通作業員		〃	2.0	
シール材	エポキシ樹脂	kg	必要量計上	(注) 1 鋼板 10m2 当りシール量
注入材		〃	〃	(注) 2 鋼板 10m2 当り注入量
諸雑費率		%	34(25)	

表 3.4 施工歩掛 (D 支柱)

(鋼板取付 10m2 当り)

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	0.9	
とび工		〃	0.4	
特殊作業員		〃	3.8	
普通作業員		〃	2.0	
シール材	エポキシ樹脂	kg	必要量計上	(注) 1 鋼板 10m2 当りシール量
注入材		〃	〃	(注) 2 鋼板 10m2 当り注入量
諸雑費率		%	32(24)	

表 3.5 施工歩掛 (E 支柱)

(鋼板取付 10m2 当り)

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1.1	
とび工		〃	1.0	
特殊作業員		〃	3.8	
普通作業員		〃	2.2	
シール材	エポキシ樹脂	kg	必要量計上	(注) 1 鋼板 10m2 当りシール量
注入材		〃	〃	(注) 2 鋼板 10m2 当り注入量
諸雑費率		%	40(31)	

表 3.6 施工歩掛 (F 支柱)

(鋼板取付 10m2 当り)

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1.0	
とび工		〃	0.8	
特殊作業員		〃	3.8	
普通作業員		〃	2.1	
シール材	エポキシ樹脂	kg	必要量計上	(注) 1 鋼板 10m2 当りシール量
注入材		〃	〃	(注) 2 鋼板 10m2 当り注入量
諸雑費率		%	37(29)	

表 3.7 施工歩掛 (G 支柱)

(鋼板取付 10m2 当り)

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1.0	
とび工		〃	0.6	
特殊作業員		〃	3.8	
普通作業員		〃	2.1	
シール材	エポキシ樹脂	kg	必要量計上	(注) 1 鋼板 10m2 当りシール量
注入材		〃	〃	(注) 2 鋼板 10m2 当り注入量
諸雑費率		%	35(26)	

表 3.8 施工歩掛 (H 支柱)

(鋼板取付 10m2 当り)

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1.0	
とび工		〃	0.5	
特殊作業員		〃	3.8	
普通作業員		〃	2.0	
シール材	エポキシ樹脂	kg	必要量計上	(注) 1 鋼板 10m2 当りシール量
注入材		〃	〃	(注) 2 鋼板 10m2 当り注入量
諸雑費率		%	34(25)	

(注) 1. 足場は枠組足場とし、手摺先行型とする。

2. シール材の数量は、縁部、パイプ周りについて「シール断面積×シール延長×単位質量 1700 (kg/m³) × (1+ロス率)」より算出し、ロス率は+0.14 とする。

3. 注入材の数量は、下記によるものとする。

1) 無収縮モルタルの場合は下記の式より必要数量を計上する。

$$\left[(\text{鋼板取付面積 } 10 \text{ (m}^2\text{)} \times \text{注入厚 } 0.03 \text{ (m)} - \text{裏当て鋼板体積}) \times \text{単位質量 } 1850 \text{ (kg/m}^3\text{)} \times (1+\text{ロス率}) \right]$$

2) エポキシ樹脂の場合は下記の式より必要数量を計上する。

$$\left[(\text{鋼板取付面積 } 10 \text{ (m}^2\text{)} \times \text{注入厚 } 0.005 \text{ (m)} - \text{裏当て鋼板体積}) \times \text{単位質量 } 1200 \text{ (kg/m}^3\text{)} \times (1+\text{ロス率}) \right]$$

4. 諸雑費は下記によるものとする。

1) 注入材が無収縮モルタルの場合

諸雑費は、材料(皿ボルト、ホールインアンカー、寸切りボルト、注入パイプ)及び電力に関する経費、機械器具費(ディスクサンダ、振動ドリル、グラウトポンプ、グラウトミキサ、クレーン付トラック、ラフテレーンクレーン)等及び枠組足場仮設材の費用であり、労務費、シール材、注入材の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

なお、枠組足場仮設材の内訳は、壁つなぎ、敷板、建枠、筋違、ジャッキベース、手摺、手摺枠(二段手摺の機能を有する)、幅木、階段、安全ネット等の費用とする。

2) 注入材がエポキシ樹脂の場合

諸雑費は、材料(皿ボルト、ホールインアンカー、寸切りボルト、注入パイプ)及び電力に関する経費、機械器具費(ディスクサンダ、振動ドリル、グラウト注入機、ハンドミキサ、トラッククレーン、ラフテレーンクレーン)等及び枠組足場仮設材の費用であり、労務費、シール材、注入材の合計額に上表()内の率を乗じた金額を上限として計上する。

なお、枠組足場仮設材の内訳は、壁つなぎ、敷板、建枠、筋違、ジャッキベース、手摺、手摺枠(二段手摺の機能を有する)、幅木、階段、安全ネット等の費用とする。

3-3 現場溶接工

現場溶接工歩掛は、次表を標準とする。

表 3.9 現場溶接工歩掛

(溶接延長 10m 当り)

名称		世話役(人)	溶接工(人)	諸雑费率(%)
すみ肉脚長 6mm		0.6	2.6	5
補強鋼板部の溶接 (V型・L型)	板厚 6mm	1.9	6.9	5
	9 "			
	10 "			
	12 "	3.3	11.9	
	13 "			
	14 "	4.2	15.5	
	15 "			
	16 "	6.0	22.1	
	19 "			
	21 "	8.7	32.2	
22 "				

(注) 1. 本表の工法は、被覆アーク溶接によるものとする。なお、本歩掛はグラインダー仕上げを含んでいる。

2. 諸雑費は、電気溶接機、電力に関する経費、グラインダーの運転経費及び溶接棒等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

3-4 フーチングアンカー削孔・定着工

フーチングアンカー削孔・定着工はフーチングの削孔及びエポキシ樹脂系注入材による定着作業とする。
 なお、注入材が不要なアンカー材及びその他の注入材を使用する場合には適用しない。フーチングアンカー削孔・定着工歩掛は、次表を標準とする。

表 3.10 フーチングアンカー削孔・定着工歩掛 (アンカー100 箇所当り)

名称	規格	単位	削孔深			
			0.8 以上 ~1m 未満	1 以上 ~1.2m 未満	1.2 以上 ~1.4m 未満	1.4 以上 ~1.6m 未満
世話役		人	0.8	0.9	1.0	1.1
特殊作業員		〃	3.4	3.8	4.4	4.9
普通作業員		〃	2.5	2.8	3.1	3.3
アンカー筋	異形棒鋼	本	100	100	100	100
アンカー注入材	エポキシ樹脂	kg	(注) 1	(注) 1	(注) 1	(注) 1
諸雑费率		%	22			

(注) 1. アンカー注入材の 100 箇所当りの数量は、次表による。

(削孔深 1m・100 箇所当り)

アンカー筋径	削孔径 (mm)	注入材使用量 (kg)
D16	26	46
D19	29	52
D22	32	59
D25	35	65
D29	39	74
D32	42	80
D35	45	87
D38	48	93

ただし、これにより難しい場合は、次式によるものとする。

$$\text{使用量 (kg)} = [(D^2 - d^2) \times \pi \times 1/4 \times L \times 100 \text{ 箇所}] \times M \times (1+K)$$

D: 削孔径 (m)

d: アンカー筋径 (m)

L: 削孔深 (m)

M: 単価質量は 1,200kg/m³ とする。

K: ロス率は +0.14 とする。

2. 諸雑費は、ハンドハンマ、ロッド、ビット、定着アンカー削孔用ガイド装置、空気圧縮機、電力に関する経費、グラウト注入機の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を計上する。

3-5 現場塗装工

現場塗装工は、別途計上する。

3-6 鉄筋加工・組立工

鉄筋加工・組立工は、「第VI編第2章市場単価1)-1鉄筋工」により別途計上する。

3-7 型枠製作設置工

型枠製作設置工は、「第II編第4章2)-1型枠工」により別途計上する。

3-8 根巻きコンクリート工

根巻きコンクリート工は、「第II編第4章1)コンクリート工」により別途計上する。

4. 単価表

(1) 鋼板巻立て工 (1) 10m² 当りの単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 3.1~3.8
とび工		〃		〃
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
シール材	エポキシ樹脂	kg		〃
注入材		〃		〃
諸雑費		式	1	〃
計				

(2) 現場溶接工 10m 当りの単価表

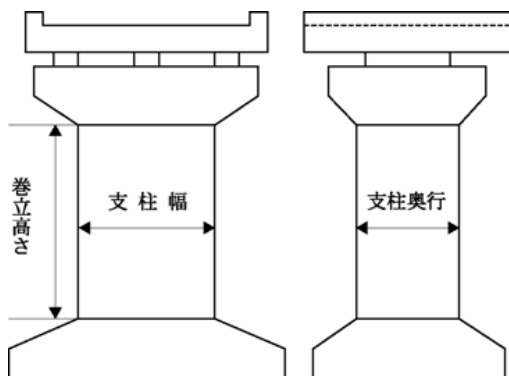
名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 3.9
溶接工		〃		〃
諸雑費		式	1	〃
計				

(3) フーチングアンカー削孔・定着工 100 箇所当り単価表

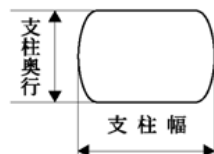
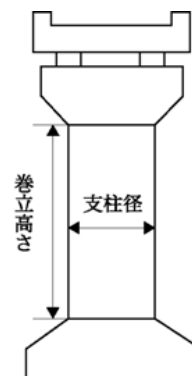
名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 3.10
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
アンカー筋		本	100	〃
アンカー注入材	エポキシ樹脂	kg		〃
諸雑費		式	1	〃
計				

5. 支柱概念図

(1) 矩形 (小判形を含む) 支柱



(2) 円形支柱



11)-2 橋梁補強工（鋼板巻立て）（2）

1. 適用範囲

本資料は、「橋梁補強工（鋼板巻立て）（1）」が適用出来る寸法の範囲を外れた橋脚の鋼板巻立てに適用する。

2. 施工歩掛

2-1 鋼板材料費

鋼板巻立て工に用いる鋼板の材料費（製作費を含む）は、共通仮設費及び現場管理費の対象外とする。

鋼板材料費は「橋梁補強工（鋼板巻立て）（1）3 施工歩掛 3-1 鋼板材料費」により計上する。

2-2 足場工

足場工は、「第IV編第3章11)橋梁補強工（コンクリート巻立て）」により別途計上する。

2-3 鋼板巻立て工（2）

橋梁補強工（鋼板巻立て）（1）の図 1.1 に示す適用範囲を外れた鋼板巻立て工歩掛は、次表を標準とする。
なお、本歩掛は下地処理工、鋼板取付工、固定アンカー工、シール工、注入力、仕上工までとする。

表 2.1 施工歩掛

（鋼板取付 10m2 当り）

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	0.8	
特殊作業員		〃	3.8	
普通作業員		〃	1.8	
シール材	エポキシ樹脂	kg	必要量計上	(注) 1 鋼板 10m2 当りシール量
注入材		〃	〃	(注) 2 鋼板 10m2 当り注入量
諸雑費率		%	25(19)	

(注) 1. シール材の数量は、縁部、パイプ周りについて「シール断面積×シール延長×単位質量 1700 (kg/m3) × (1+ロス率)」より算出し、ロス率は+0.14 とする。

2. 注入材の数量は、下記によるものとする。

1) 無収縮モルタルの場合は下記の式より必要数量を計上する。

「(鋼板取付面積 10 (m2) × 注入厚 0.03 (m) - 裏当て鋼板体積) × 単位質量 1850 (kg/m3) × (1+ロス率)」より算出し、ロス率は+0.15 とする。

2) エポキシ樹脂の場合は下記の式より必要数量を計上する。

「(鋼板取付面積 10 (m2) × 注入厚 0.005 (m) - 裏当て鋼板体積) × 単位質量 1200 (kg/m3) × (1+ロス率)」より算出し、ロス率は+0.1 とする。

3. 諸雑費は下記によるものとする。

1) 注入材が無収縮モルタルの場合

諸雑費は、材料（皿ボルト、ホールインアンカ、寸切りボルト、注入パイプ）及び電力に関する経費、機械器具費（ディスクサンダ、振動ドリル、グラウトポンプ、グラウトミキサ、クレーン付トラック）等の費用であり、労務費、シール材、注入材の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

2) 注入材がエポキシ樹脂の場合

諸雑費は、材料（皿ボルト、ホールインアンカ、寸切りボルト、注入パイプ）及び電力に関する経費、機械器具費（ディスクサンダ、振動ドリル、グラウト注入機、ハンドミキサ、トラッククレーン）等の費用であり、労務費、シール材、注入材の合計額に上表（ ）内の率を乗じた金額を上限として計上する。

2-4 現場溶接工

現場溶接工は、「橋梁補強工（鋼板巻立て）（1）3 施工歩掛 3-3 現場溶接工」により計上する。

2-5 フーチングアンカー削孔・定着工

フーチングアンカー削孔・定着工は「橋梁補強工（鋼板巻立て）（1）3 施工歩掛 3-4 フーチングアンカー削孔・定着工」により計上する。

2-6 現場塗装工

現場塗装工は、別途計上する。

2-7 鉄筋加工・組立工

鉄筋加工・組立工は、「第VI編第2章市場単価 1)-1 鉄筋工」により別途計上する。

2-8 型枠製作設置工

型枠製作設置工は、「第II編第4章 2)-1 型枠工」により別途計上する。

2-9 根巻きコンクリート工

根巻きコンクリート工は、「第II編第4章 1) コンクリート工」により別途計上する。

3. 単価表**(1) 鋼板巻立て工 (2) 10m² 当りの単価表**

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 2.1
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
シール材	エポキシ樹脂	kg		〃
注入材		〃		〃
諸雑費		式	1	〃
計				

(2) 現場溶接工 10m 当り単価表

現場溶接工は、「橋梁補強工（鋼板巻立て）（1）4. 単価表（2）現場溶接工 10m 当り単価表」を適用する。

(3) フーチングアンカー削孔・定着工 100 箇所当り単価表

フーチングアンカー削孔・定着工は、「橋梁補強工（鋼板巻立て）（1）4. 単価表（3）フーチングアンカー削孔・定着工 100 箇所当り単価表」を適用する。

11)-3 橋梁補強工 (コンクリート巻立て)

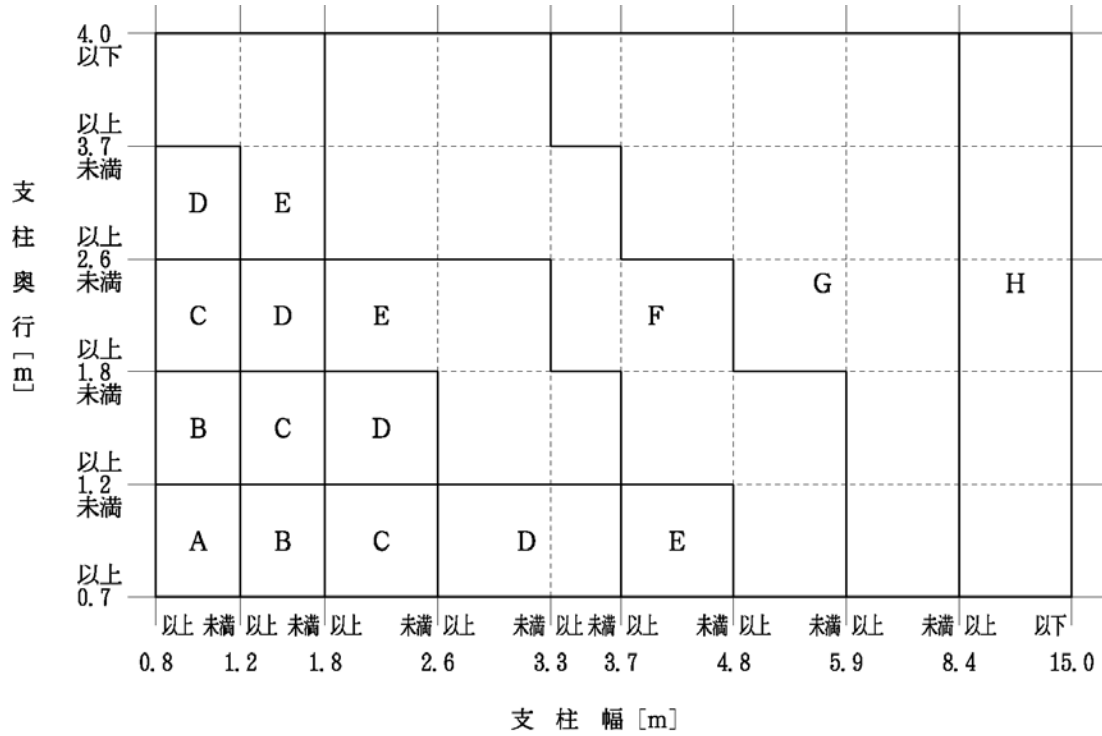
1. 適用範囲

本資料は、RC 橋脚 (既設の鉄筋コンクリート橋脚) の補強用コンクリート巻立て工であり、コンクリート巻立て厚は 0.25m とし、橋脚は次図の範囲まで適用する。

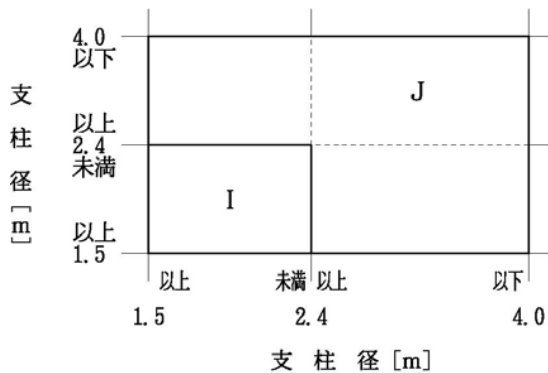
また、A 支柱～J 支柱に含まれないものについては、「5. 施工歩掛」により計上する。なお、梁及びフーチングの補強には適用しない。

図 1.1 矩形 (小判形を含む) 及び円形支柱の適用範囲

(1) 矩形 (小判形を含む) 支柱



(2) 円形支柱

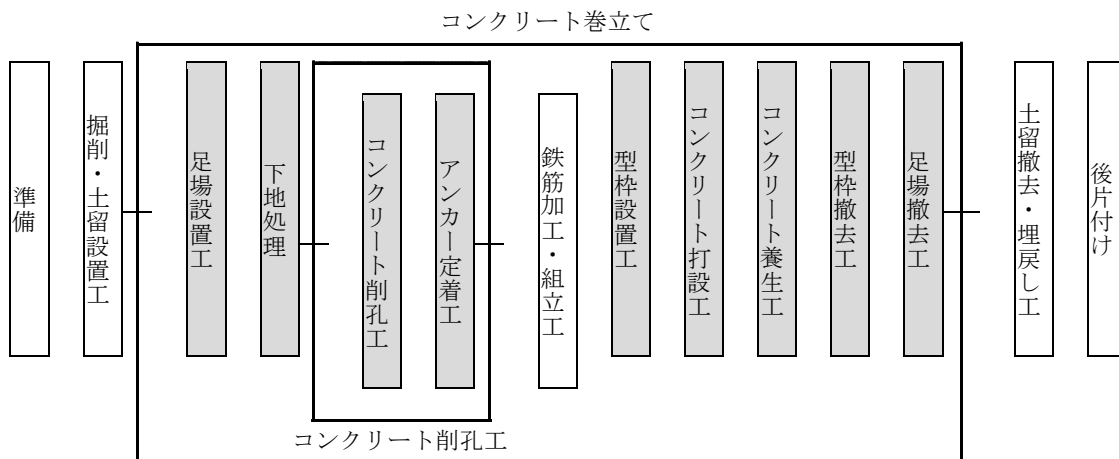


支柱区分	施工歩掛
A 支柱	表4.3
B 支柱	表4.4
C 支柱	表4.5
D 支柱	表4.6
E 支柱	表4.7
F 支柱	表4.8
G 支柱	表4.9
H 支柱	表4.10
I 支柱	表4.11
J 支柱	表4.12

(注) 支柱幅・支柱奥行・支柱径は、補強前の支柱寸法とする。

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



- (注) 1. 本歩掛で対応しているのは実線部分のみである。
 2. 掘削・埋戻し工，土留設置・撤去工は，別途計上する。
 3. 鉄筋加工・組立工は，「第VI編第2章1)鉄筋工」により別途計上する。

3. コンクリート削孔工

コンクリート削孔工は，フーチング及び支柱のコンクリート削孔，エポキシ樹脂注入材によるアンカー定着までの作業とする。

なお，PC 中間貫通鋼材や注入材が不要なアンカー材及びその他の注入材使用には適用しない。

3-1 編成人員

コンクリート削孔作業の日当り編成人員は，次表を標準とする。

表 3.1 日当り編成人員 (人)

世話役	特殊作業員	普通作業員
1	3	1

3-2 日当り施工量

標準編成人員による日当り施工量は，次表を標準とする。

表 3.2 日当り施工量 (箇所/日)

削孔径 (mm)	20 以上 30 未満	30 以上 50 以下	
	削孔深 (m)	0.2 以上 0.4 以下	0.3 以上 0.6 未満
日当り施工量	127	77	56

3-3 注入材使用量

エポキシ樹脂系注入材を標準とし，100 箇所当りの注入材使用量は次式による。

$$\text{使用量 (kg)} = [(D^2 - d^2 \times \pi \times 1/4 \times L \times 100 \text{ 箇所}] \times M \times (1 + K) \dots \text{式 3.1}$$

- D: 削孔径 (m)
- d: アンカー材径 (m)
- L: 削孔深 (m)
- M: 単位質量は 1,200kg/m³ とする。
- K: ロス率は +0.09 とする。

表 3.3 アンカー材径及び標準削孔径

アンカー材径 (d)	削孔径 (D)
D16~D35	d+10 (mm)

3-4 アンカー材使用量

加工・組立が不要なアンカー材（製品）を標準とする。ただし、鉄筋（異形棒鋼）をアンカー材として使用する場合は、「第VI編第2章1)鉄筋工」に使用質量を計上する。

3-5 諸雑費

諸雑費は、ハンドハンマ、ハンマドリル、空気圧縮機の機械損料及び空気圧縮機の燃料、エポキシ樹脂注入器具費、ロッド・ビットの消費費及び電力に関する経費等の費用とし、労務費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表 3.4 諸雑費率 (%)

削孔径 (mm)	20 以上 30 未満	30 以上 50 以下	
	削孔深 (m) 0.2 以上 0.4 以下	0.3 以上 0.6 未満	0.6 以上 0.9 以下
諸雑費率	16	17	25

4. コンクリート巻立て工

コンクリート巻立て工は、下地処理、足場・型枠設置、コンクリート打設・養生、型枠・足場撤去までの作業とする。

4-1 機種の選定

使用する機械・規格は、次表を標準とする。

表 4.1 機種の選定

作業種別	機械名	規格	単位	数量
コンクリート打設	コンクリートポンプ車	ブーム式 65~85m3	台	1

(注) 現場条件によりこれにより難しい場合は、別途計上する。

4-2 コンクリート使用量

コンクリートの使用量は次式による。

$$\text{使用量 (m}^3\text{)} = \text{設計量} \times (1+K) \cdots\text{式 4.1}$$

K: ロス率は+0.04 とする。

4-3 施工区分

コンクリート巻立て工の施工歩掛に含まれているのは、次表とする。

表 4.2 施工区分

施工区分施工内容	a 施工	b 施工	c 施工	d 施工
足場設置・撤去工	○	○	—	—
下地処理工	○	—	○	—
型枠設置・撤去工	○	○	○	○
コンクリート打設工	○	○	○	○
コンクリート養生工	○	○	○	○

(注) 「○」が施工歩掛に含んでいる。

4-4 施工歩掛

コンクリート巻立て工における支柱区分毎の歩掛は、次表とする。

表 4.3 施工歩掛 (A 支柱) (10m³ 当り)

支柱形式		矩形 (小判形) 支柱			
施工区分		a 施工	b 施工	c 施工	d 施工
名称	単位				
世話役	人	3.24	2.85	2.11	1.72
とび工	〃	3.38	3.38	—	—
型枠工	〃	5.39	5.39	5.39	5.39
特殊作業員	〃	1.70	0.43	1.70	0.43
普通作業員	〃	6.73	6.08	4.98	4.33
コンクリートポンプ車運転	日	0.46	0.46	0.46	0.46
諸雑費率	%	54(52)	61(58)	16(13)	17(13)

表 4.4 施工歩掛 (B 支柱) (10m³ 当り)

支柱形式		矩形 (小判形) 支柱			
施工区分		a 施工	b 施工	c 施工	d 施工
名称	単位				
世話役	人	3.09	2.68	2.08	1.67
とび工	〃	2.99	2.99	—	—
型枠工	〃	5.21	5.21	5.21	5.21
特殊作業員	〃	1.77	0.43	1.77	0.43
普通作業員	〃	6.47	5.78	4.92	4.23
コンクリートポンプ車運転	日	0.46	0.46	0.46	0.46
諸雑費率	%	52(46)	57(54)	17(14)	18(14)

表 4.5 施工歩掛 (C 支柱) (10m³ 当り)

支柱形式		矩形 (小判形) 支柱			
施工区分		a 施工	b 施工	c 施工	d 施工
名称	単位				
世話役	人	2.95	2.52	2.06	1.63
とび工	〃	2.66	2.66	—	—
型枠工	〃	5.05	5.05	5.05	5.05
特殊作業員	〃	1.83	0.43	1.83	0.43
普通作業員	〃	6.24	5.52	4.86	4.14
コンクリートポンプ車運転	日	0.46	0.46	0.46	0.46
諸雑費率	%	49(46)	55(51)	17(13)	18(14)

表 4.6 施工歩掛 (D 支柱)

(10m3 当り)

支柱形式		矩形 (小判形) 支柱			
施工区分		a 施工	b 施工	c 施工	d 施工
名称	単位				
世話役	人	2.84	2.39	2.04	1.59
とび工	〃	2.39	2.39	—	—
型枠工	〃	4.93	4.93	4.93	4.93
特殊作業員	〃	1.87	0.43	1.87	0.43
普通作業員	〃	6.05	5.31	4.81	4.07
コンクリートポンプ車運転	日	0.46	0.46	0.46	0.46
諸雑費率	%	48(45)	54(49)	17(13)	18(13)

表 4.7 施工歩掛 (E 支柱)

(10m3 当り)

支柱形式		矩形 (小判形) 支柱			
施工区分		a 施工	b 施工	c 施工	d 施工
名称	単位				
世話役	人	2.77	2.32	2.03	1.58
とび工	〃	2.20	2.20	—	—
型枠工	〃	4.88	4.88	4.88	4.88
特殊作業員	〃	1.90	0.43	1.90	0.43
普通作業員	〃	5.94	5.19	4.80	4.05
コンクリートポンプ車運転	日	0.46	0.46	0.46	0.46
諸雑費率	%	45(42)	51(47)	17(13)	18(13)

表 4.8 施工歩掛 (F 支柱)

(10m3 当り)

支柱形式		矩形 (小判形) 支柱			
施工区分		a 施工	b 施工	c 施工	d 施工
名称	単位				
世話役	人	2.70	2.24	2.02	1.56
とび工	〃	2.01	2.01	—	—
型枠工	〃	4.80	4.80	4.80	4.80
特殊作業員	〃	1.92	0.43	1.92	0.43
普通作業員	〃	5.81	5.04	4.77	4.00
コンクリートポンプ車運転	日	0.46	0.46	0.46	0.46
諸雑費率	%	44(41)	50(46)	17(13)	18(13)

表 4.9 施工歩掛 (G 支柱)

(10m3 当り)

支柱形式		矩形 (小判形) 支柱			
施工区分		a 施工	b 施工	c 施工	d 施工
名称	単位				
世話役	人	2.59	2.11	2.00	1.52
とび工	〃	1.75	1.75	—	—
型枠工	〃	4.67	4.67	4.67	4.67
特殊作業員	〃	1.98	0.43	1.98	0.43
普通作業員	〃	5.64	4.84	4.73	3.93
コンクリートポンプ車運転	日	0.46	0.46	0.46	0.46
諸雑費率	%	41(37)	46(42)	17(13)	18(13)

表 4.10 施工歩掛 (H 支柱)

(10m3 当り)

支柱形式		矩形 (小判形) 支柱			
施工区分		a 施工	b 施工	c 施工	d 施工
名称	単位				
世話役	人	2.51	2.02	1.99	1.50
とび工	〃	1.55	1.55	—	—
型枠工	〃	4.58	4.58	4.58	4.58
特殊作業員	〃	2.00	0.43	2.00	0.43
普通作業員	〃	5.50	4.69	4.69	3.88
コンクリートポンプ車運転	日	0.46	0.46	0.46	0.46
諸雑費率	%	38(36)	43(41)	17(13)	18(13)

表 4.11 施工歩掛 (I 支柱)

(10m3 当り)

支柱形式		矩形 (小判形) 支柱			
施工区分		a 施工	b 施工	c 施工	d 施工
名称	単位				
世話役	人	4.33	3.89	3.31	2.87
とび工	〃	3.04	3.04	—	—
型枠工	〃	4.50	4.50	4.50	4.50
特殊作業員	〃	1.87	0.43	1.87	0.43
普通作業員	〃	6.37	5.63	4.79	4.05
コンクリートポンプ車運転	日	0.46	0.46	0.46	0.46
諸雑費率	%	53(49)	58(55)	18(15)	20(16)

表 4.12 施工歩掛 (J 支柱)

(10m³ 当り)

支柱形式		矩形 (小判形) 支柱			
施工区分		a 施工	b 施工	c 施工	d 施工
名称	単位				
世話役	人	4.14	3.59	3.31	2.76
とび工	〃	2.47	2.47	—	—
型枠工	〃	4.30	4.30	4.30	4.30
特殊作業員	〃	2.19	0.43	2.19	0.43
普通作業員	〃	6.13	5.22	4.85	3.94
コンクリートポンプ車運転	日	0.46	0.46	0.46	0.46
諸雑費率	%	46(43)	53(50)	18(14)	20(15)

(注) 1. 上表には、ホースの筒先作業等を行う機械付補助労務を含む。

2. 足場は、枠組足場 (手摺先行型) を標準とし、単管足場及び単管傾斜足場を使用する場合については別途計上する。

3. 下地処理は、チップングを標準とする。

4. コンクリート養生は、一般養生を標準とする。なお、保温養生等の特別な養生を必要とする場合は、諸雑費率は () 書きの値とし、養生費は「第 II 編第 4 章 1) コンクリート工」により別途計上する。

5. 諸雑費には、下地処理に使用するピックハンマ、空気圧縮機の機械損料及び空気圧縮機の燃料、コンクリート打設に使用するパイププレート損料、一般養生の労務費、ポンプ損料及び養生マット等、枠組足場仮設材、一般型枠及び合板円形型枠仮設材、既設排水管の撤去設置 (新設は含まない) 等及び電力に関する経費等の費用とし、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

6. 枠組足場仮設材の内訳は、壁つなぎ、敷板、建枠、筋違、ジャッキベース、手摺柱、手摺、手摺枠 (二段手摺の機能を有する)、幅木、階段、安全ネット等、及び仮設材の持上 (下) げ機械に要する費用とする。

7. 一般型枠及び合板円形型枠仮設材の内訳は、型枠用合板、鋼製型枠、さん木、電動工具、電力に関する経費、組立支持材及びはく離剤等及び仮設材の持上 (下) げ機械に要する費用とする。

5. 施工歩掛

図 1.1 に示す適用範囲外のコンクリート巻立て工を施工する場合は、次の施工歩掛とする。

5-1 足場工

足場は、枠組足場 (手摺先行型) を標準とし、足場の設置・撤去にかかる施工歩掛は、次表とする。

なお、単管足場及び単管傾斜足場については別途計上する。

表 5.1 施工歩掛

(100 掛 m² 当り)

名称	規格	単位	数量
世話役		人	0.99
とび工		〃	2.95
普通作業員		〃	1.53
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型 (第 1 次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日	0.70
諸雑費率		%	80

(注) 1. 諸雑費には、壁つなぎ、敷板、建枠、筋違、ジャッキベース、手摺柱、手摺、手摺枠 (二段手摺の機能を有する)、幅木、階段、安全ネット等の費用とし、労務費及び機械賃料の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

2. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。

5-2 下地処理工

下地処理はチップングを標準とし、下地処理にかかる施工歩掛は、次表とする。

表 5.2 施工歩掛 (100m² 当り)

名称	単位	数量
世話役	人	1.27
特殊作業員	〃	4.10
普通作業員	〃	2.11
諸雑費率	%	12

(注) 諸雑費には、ピックハンマ、空気圧縮機の機械損料及び空気圧縮機の燃料等の費用とし、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

5-3 一般型枠工

矩形(小判形)及び円形支柱の型枠工に適用とし、一般型枠の製作・設置・撤去にかかる施工歩掛は、次表とする。

表 5.3 施工歩掛 (100m² 当り)

名称	単位	数量
世話役	人	3.07
型枠工	〃	11.10
普通作業員	〃	6.18
諸雑費率	%	22

(注) 1. 上表には、はく離剤塗布及びケレン作業を含む。
 2. 上表には、小判形支柱の両端部分は含むが、円形支柱 3m 以下の円形部分には適用しない。
 3. 諸雑費には、型枠用合板、鋼製型枠、さん木、電動工具、組立支持材、はく離剤及び電力に関する経費等及び仮設材の持上(下)げ機械に要する費用とし、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

5-4 合板円形型枠工

円形支柱の型枠工に適用とし、半径 3m 以下の合板円形型枠の製作・設置・撤去にかかる施工歩掛は、次表とする。

表 5.4 施工歩掛 (100m² 当り)

名称	単位	数量
世話役	人	5.90
型枠工	〃	10.03
普通作業員	〃	6.07
諸雑費率	%	24

(注) 1. 上表には、はく離剤塗布及びケレン作業を含む。
 2. 諸雑費には、型枠用合板、さん木、電動工具、組立支持材、はく離剤及び電力に関する経費等及び仮設材の持上(下)げ機械に要する費用とし、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

5-5 コンクリート工

コンクリートの打設・養生にかかる施工歩掛は、次表とする。なお、コンクリート使用量については、コンクリート巻立て工による。

表 5.5 施工歩掛

(10m³ 当り)

名称	規格	単位	数量
世話役		人	0.23
特殊作業員		〃	0.43
普通作業員		〃	1.33 (0.80)
コンクリートポンプ車運転	ブーム式 65～85m ³	日	0.46
諸雑費率		%	6(3)

(注) 1. 上表には、ホースの筒先作業等を行う機械付補助労務を含む。

2. コンクリート養生は、一般養生を標準とする。なお、保温養生等の特別な養生を必要とする場合、普通作業員、諸雑費率は () 書きの値とし、養生費は、「第 II 編第 4 章 1) コンクリート工」により別途計上する。

3. 諸雑費には、コンクリート打設に使用するパイプレータ損料、一般養生のポンプ損料及び養生マット等及び電力に関する経費等の費用とし、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

6. 単価表

(1) コンクリート削孔工 100 箇所当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1×100/D	表 3.1, 表 3.2
特殊作業員		〃	3×100/D	〃
普通作業員		〃	1×100/D	〃
注入材	エポキシ樹脂系	kg		式 3.1
アンカー材		本	100	必要に応じて計上
諸雑費		式	1	表 3.4
計				

(注) D: 日当り施工量

(2) コンクリート巻立て工 10m³ 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 4.3～表 4.12
とび工		〃		〃 必要に応じて計上
型枠工		〃		〃
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
コンクリート		m ³	10.4	式 4.1
コンクリートポンプ車運転	ブーム式 65～85m ³	日		表 4.3～表 4.12
養生工		式	1	必要に応じて計上 (注)
諸雑費		〃	1	表 4.3～表 4.12
計				

(注) 1. 養生工については、「第Ⅱ編第4章1)コンクリート工8. 養生工, 9. 養生工(特殊養生)」によるものとする。

2. 養生工を計上した場合は、諸雑費の対象としない。

(3) 足場工 (適用範囲外コンクリート巻立て工) 100 掛 m² 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	0.99	表 5.1
とび工		〃	2.95	〃
普通作業員		〃	1.53	〃
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型 (第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日	0.70	〃
諸雑費		式	1	〃
計				

(4) 下地処理工 (適用範囲外コンクリート巻立て工) 100m² 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1.27	表 5.2
特殊作業員		〃	4.10	〃
普通作業員		〃	2.11	〃
諸雑費		式	1	〃
計				

(5) 型枠工 (適用範囲外コンクリート巻立て工) 100m² 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 5. 3, 表 5. 4
型枠工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
諸雑費		式	1	〃
計				

(6) コンクリート工 (適用範囲外コンクリート巻立て工) 10m³ 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	0. 23	表 5. 5
特殊作業員		〃	0. 43	〃
普通作業員		〃		〃
コンクリート		m ³	10. 4	式 4. 1
コンクリートポンプ車運転	ブーム式 65~85m ³	日	0. 46	表 5. 5
養生工		式	1	必要に応じて計上 (注)
諸雑費		〃	1	表 5. 5
計				

(注) 1. 養生工については、「第Ⅱ編第4章1)コンクリート工8. 養生工, 9. 養生工(特殊養生)」によるものとする。

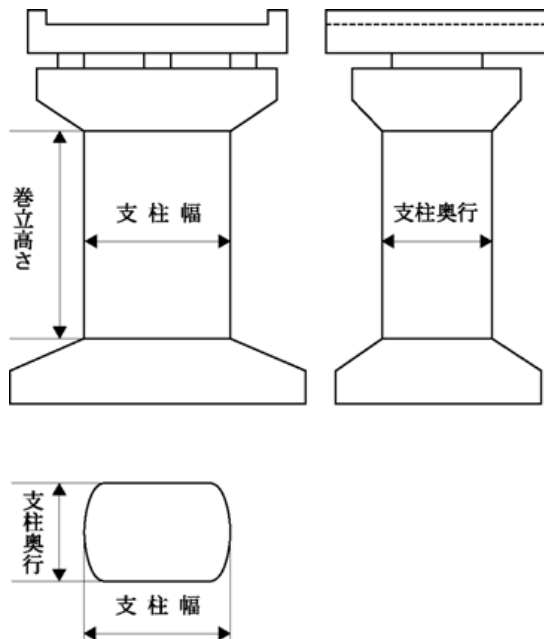
2. 養生工を計上した場合は、諸雑費の対象としない。

(7) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
コンクリートポンプ車	ブーム式 65~85m ³	機-18	運転労務数量 →1. 00 燃料消費量 →68 機械損料数値 →1. 02

7. 支柱概念図(参考)

(1) 矩形 (小判形を含む) 支柱



(2) 円形支柱

